

## 令和3年度予算特別委員会について

### 1 審査日程

令和4年2月14日（月）～令和4年3月22日（火）

教育委員会関係 / 令和4年2月22日（火）、3月10日（木）

総括質疑・採決 / 令和4年3月17日（木）

### 2 教育委員会関係の審査内容

別紙「主な質問・答弁」のとおり

---

## ■ 学校教育関係 ■

---

### 【就学援助について】

**谷分科員** 生活保護費の基準額が下がるという点について、基準額が下がった分のしわ寄せを受ける家庭について、就学援助はこれまでどおり支給されるのか。

吉岡課長 これまでどおりの支給である。

---

### 【志和中学校テニスコート整備について】

**坂元分科員** テニスコートを志和生涯学習センターの跡地にテニスコートを設置するということが、テニスに限られた背景を教えてほしい。

武上次長 志和中学校の敷地内に志和小学校を建設するにあたり、もともとテニスコートがあった場所に小学校の校舎を設置する。そのテニスコートの移転先として生涯学習センターの跡地に設置する。

**坂元分科員** 学生専用なのか。一般の市民も利用できるのか。

武上次長 主な設置目的は中学校のクラブ活動として利用するが、志和生涯学習センターの解体にあたり、地域の要望により照明も設置し、一般の方への開放も利用できるように考えている。

**坂元分科員** 中学校の現在のテニスコートがこちらに移転した認識でよいのか。今のテニスコートがなくなり、新たに設計されるものが加わるのか。どちらなのか。

武上次長 中学校のテニスコートの機能としては移転。照明等をつけて学校施設の開放を行うという位置づけで、学校教育の支障のない範囲で一般の方に利用していただく。

---

### 【独創教育の推進について】

**坪井分科員** 独創教育とは何か。

木村課長 現在の東広島教育は、西条小学校に赴任した檜高憲三氏が行った独創教育を源流としている。この独創教育は、これからの令和の日本型学校教育において求められる個別最適な学びや地域とともにある学校づくりにつながるものとする。この独創教育を通して、本市の教育を見つめなおし、市民と教育関係者とともにこれからの本市の教育について考え、更なる充実を図りたい。そのため、令和5年度に独創教育100周年を迎えるに当たり、プレイベントとしてシンポジウム等を行いたいと考えている。内容の詳細については来年度からの調査・研究を基に調整する。

**坪井分科員** 令和5年の100周年以降の展開については？

木村課長 令和4年度から2年間をかけて、独創教育と令和の日本型学校教育の関連に係る調査研究を行う。令和5年度の100周年の段階で記念イベントの開催を考えている。その前段階として令和4年度はプレイベントとして独創教育に関わるシンポジウムを開催したいと考えている。内容は今後の調査・研究の内容に応じて考える。令和5年度以降は、独創教育と令和の日本型学校教育を踏まえ、新たな東広島教育を整理し、普及していきたいと考えている。

- 奥谷議員** 独創教育に関して何か資料等が残っているのか、あるいは歴代の教員に引き継がれているものなのか
- 木村課長 独創教育については、西条小学校が現代の課題に照らして、独創教育を引き継ぐ形で取り組んでいる。
- 奥谷議員** 独創教育とは何かまとめたテキストのようなものがあるのか、あるいはこれまで受け継いだ校長先生や先生方が独創教育を知らない若い先生に伝えていくのか。どのように調査研究するのか。
- 津森教育長 テキストという形ではないが、これまで研究をされた資料は多くある。これまでの資料をどのように活用していくのかを考えることに調査・研究の意義がある。

---

#### 【小中学校特別教室への空調整備について】

- 玉川分科員** 小中学校の特別教室に空調設備を設置することについて全学校に設置するのだと思うのだが。どのあたりから、いつごろまでに設置するのか。
- 武上次長 普通教室には全て設置しており、特別教室に設置するのだが、おおむね3年を目途に設置する。
- 各学校の状況が違うため児童数に対して、教室が密になる学校から設置していく。
- 玉川分科員** これが最初にかかる金額と考えて、3年かかるため、1/3として考えてよろしいか。
- 武上次長 学校への聴き取り、利用状況を聞きながら3年で設置する。金額については1/3の認識でよろしい。
- 玉川分科員** 各学校それぞれの特別教室の利用状況もあるが、できるだけ早く設置してほしい。

---

#### 【小中学校屋内運動場の空調整備について】

- 谷分科員** 中学校の屋内運動場の空調設置については安芸津の中学校にだけ設置するのか。
- 武上次長 各小中学校全体として考えている。
- 谷分科員** 小中学校全部となると、財源は大変だと思う。国庫補助の活用はあるのか。
- 武上次長 国の防災・減災、国土強靱化のための5ヶ年加速化対策の計画があり、体育館については令和7年には35%を目標として立てられており、国の補助はある。
- 谷分科員** 原発の被災者の方に対しても計画があるが、被災者の方の受け入れのための施設となることから、しっかりと対応し、国にも早く進めるように言ってもらいたいと思う。
- 武上次長 現在、長寿命化改良の整備も同時に進めていることから、この長寿命化改良工事のスケジュールと調整しながら、避難箇所である体育館を優先するのか、小中学校の長寿命化を優先にするのかを含めて、来年度検討してできるだけ早く設置したいと考えている。

---

#### 【校内特別支援教室の設置について】

- 重光分科員** 不登校の生徒への校内特別支援教室とはどのようなものか。
- 木村課長 不登校及び不登校傾向児童生徒の社会的自立を促すため、指定した学校に校内特別支援教室を設置している。児童生徒は、個別に学習したり、個々の状況に応じて教室へ向かったりするなど、段階的な支援を行っている。

- 重光分科員** 令和3年度は小学校・中学校各3校に設置されているが、その成果が実際の登校に結びついて表れていると考えてよいか。
- 木村課長 令和2年度に利用した児童生徒の状況であるが、小学校2校で28名、中学校2校で28名であった。そのうち小学校では28名、中学校では24名に改善がみられた。改善の状況とは、欠席日数の減少、登校意欲の向上、学習意欲の向上、対人関係の向上、教室復帰などである。校内特別支援教室を拡充することで、不登校や不登校傾向の児童生徒への支援を充実させていきたい。
- 重光分科員** 利用者が多いことが分かった。不登校生徒人数の分布状況の概略が分かれば教えてほしい。人口が多い町の学校に集中しているのか。
- 木村課長 学校別の状況は個別の状況になるので申し上げづらいが、数としては増えているので、このような状況に対する支援を充実させたいと考えている。
- 重光分科員** 不登校の状況を改善しようという取り組みがよくわかった。しっかりと頑張ってもらいたい。
- 牛尾副主査** 不登校児童生徒の定義を教えてください。
- 木村課長 不登校の定義については、文部科学省によると、「年間30日以上欠席した児童生徒のうち次に該当するもの、何らかの心理的・情緒的・身体的・社会的要因背景により児童生徒が登校しない、あるいは登校したくともできない状況にある」とされている。

---

### 【スクールバスの運行について】

- 谷分科員** 過疎地域の国庫補助を活用している。過疎地域自立支援法を脱出する地域（豊栄・福富・河内）はその解消の途上にある。このスクールバスの運行は解消後もずっと必要で、途切れることはあってはならない。今後の考えを訊く。
- 吉岡課長 スクールバスの運行に関しては、学校の統合、移転に伴うもので運行している。今のところ、運行を途切れさせる考えはない。
- 谷分科員** 学校の統合については、地域が2分するくらい意見があるなかで、強硬して統廃合が進められている。その中で、地域に負担を求めることはあってはならない。国の補助金についても、十分求めてほしい。これ以上は地域を分断する思いをさせないよう予算確保を求める。
- 坂元分科員** 中学校にスクールバスが来るようになると思うが、安全面についてはどうなっているか。
- 武上次長 統合は住民自治協の了解を得ている。通学路の安全確保は、PTAと協議しながら進めている。通学路の改善は、毎年要望を聞き、関係機関と連携している。
- 坂元分科員** バスから降りる時に地域の安全パトロール、見守りなどが考えられるが、確認するのはバスの運転手だけなのか警備員を考えているのか。地域の方に依頼するのか。
- 吉岡課長 安全面に関して、人を雇うことは考えていない。学校長、管理職が出向いて見守りをしている状況である。
- 坂元分科員** 児童の安全に関わることである。しっかりと注視して欲しい。

### 【西条小学校の増改築について】

- 坪井分科員 新しく、増築を考えていると以前聞いたことがあるが、今ある仮設校舎はどうするのか。
- 武上次長 増築としては2,000㎡程度のとしており、今ある仮設校舎は増築後、一部解消し一部はいきいきとして利用を考えている。
- 坪井分科員 それではグラウンドそのものは若干広くなるのか。空いた部分はあまり増築するスペースがないと思われるが何処に建てるのか。
- 武上次長 具体的には木を植えている中庭部分を想定している。普通教室5室、特別教室1室、職員室・校長室、・事務室である。
- 坪井分科員 中庭部分には、卒業記念の樹木があったと思われるが、確認はされているか。
- 武上次長 学校と確認しながら（タイムカプセル等も考えられることから）増築を進めて行く。
- 坪井分科員 タイムカプセル等にも配慮しながら、計画を進めてもらいたい。
- 

### 【部活動指導員について】

- 重光分科員 部活動指導員の配置には基準となるものがあるのか。
- 木村課長 中学校においては、専門外の部活動を担当する教員が多く、その指導に困難さを抱えている先生も少なくない。部活指導員の配置に当たっては、専門的に指導できる教員のいない学校で、校長と相談させてもらいながら配置している。
- 重光分科員 部活動指導員の配置に保護者からの要望などは含まれていないのか。
- 木村課長 部活動についての保護者の意見は、学校を通じて聞いている。それを踏まえて、校長と相談させてもらいながら配置している。
- 重光分科員 子どものことを考えると、能力のある子供も多いので、良い指導をしっかりと行ってほしい。しっかりと配慮して行ってほしい。
- 

### 【磯松中学校の仮設校舎リース料について】

- 谷分科員 この学校は生徒数が増えているが、10年先や5年先の学校規模はどう考えているのか。
- 武上次長 児童数の推計は住民基本台帳から推計している。磯松空学校は現在450名、令和15年で70人になる見込み。児童数がどこで天井になるのか課題であるが、現在はそこが不明瞭であるため仮設リースで対応している。
- 谷分科員 地域のまちづくりが見えてこない。そのしわ寄せが仮設校舎での対応。川上地域の行く末がわからず、心配である。各部教連携してこの先進めてほしい。
- 

### 【児童生徒の科学の芽育成について】

- 玉川分科員 科学の芽育成講座の予算が減額になった理由は何か。
- 木村課長 児童生徒の科学の芽育成については、学校へ行って行う科学の芽育成講座と休みの日に実施する科学の芽育成プロジェクトの2つがある。科学の芽育成プロジェクトは、令和2年度から2年間行ったが、初級・中級・上級のコースで、それぞれ希望者を募って参加をいただいている。新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止となった講座もあるが、講座に参加した子供たちからは、肯定的な評価をもらっている。課題としては、対象が少

数の児童生徒に限定されていたことや、生涯学習課や産業振興課が主催する講座、広島大学が主催するジュニアドクター、西条農業高校が行うスーパーサイエンスハイスクールなどと内容が重複しているところがあった。このため、大学・企業と調整して、現在の科学の芽育成プロジェクトの内容を学校で行う科学の芽育成講座へ統合することで、より多くの子どもたちの科学の芽を育成したいと考えている。こうしたことから、委託部分がなくなり、減額となった。

**玉川分科員** 講座については、私も期待している。もっとPRしてもっと多くの生徒に知らせればよかったのではないかな。

**木村課長** 科学の芽育成プロジェクトは、外部で行うこともあり、定員を設定している。初級のおもしろ科学講座20組40人の設定をしており、それ以上の応募があった。会場の広さや講師の指導の都合上、定員を設定している。定員を絞らざるを得ないところが課題でもある。同じような内容を学校で行えば、30～40人の子どもたちに一斉に行うことができるため、より多くの子どもたちの科学の芽を育成することができると考えている。

**玉川分科員** 諸事情あると思うが、期待しているのでなるべく長く頑張っていけるようにしてほしい。

---

#### 【小中学校教育支援者の配置について】

**坪井分科員** 各学校からの要望に対して実際の配置が少ないところもあるのではないかな。子供に対して配置の選考の流れを教えてほしい。

**木村課長** 配置の流れについてであるが、教育補助員については、来年度の特別支援学級の在籍児童生徒がおおよそ確定した段階で、各学校からの配置希望とともに、在籍人数、該当児童生徒の実態等に合わせて、教育委員会と学校が連携しながら、総合的に判断して配置を決定している。現在、小学校では、原則、在籍児童4名以上の学級には1人配置している状況で、その基準を基に、来年度は5名増員を考えている。

**坪井分科員** 要望に対して配置がなかった学校について、何かしらのサポートがあるのか。

**木村課長** 教育補助員、学校支援員など支援者の配置が十分でない学校については、特別支援教育サポーターを時間単位で配置している。同じ内容で特別支援教育大学生サポーターとして、大学と連携して大学生にもサポーターとして入ってもらっている。また、県費の会計年度任用職員を特別支援学級などに配置するなど、複合的に支援者を配置してサポートしている。

**坪井分科員** いろいろな支援者がサポートしていることが分かったが、そのサポーターさえいないという学校はないのか。

**木村課長** 特別な支援を要する児童生徒への対応については、基本的には、教職員の指導によるものと考えている。指導力のある先生の学級においては、子供たちが安心して授業を受けている状況があるため、教育補助員や学校教育支援員の配置がない学校もある。若手教員などなかなか指導がうまくいかない場合や、子供たちの特性が様々ある状況や在籍している児童生徒が複数学年にわたっている状況にある学級には、教育補助員、学校教育支援員、特別支援教育サポーターを配置している。学校や児童生徒の状況に応じて配置している。

**坪井分科員** 指導力に差のある先生のことも考えて配置するなど分かった。

**谷分科員** どのような人が教育支援員なのか。教育補助員は、大学で特別支援教育について学んでいるような人なのか。

- 木村課長 教育補助員や学校教育支援員については、単独では指導を行わない。学級担任とともに支援に当たっている状況である。教育補助員や学校教育支援員の仕事の内容や子供への関わり方などについては、校長から研修等を行っていただいている。
- 谷分科員 教育補助員や学校教育支援員から、研修が十分なのかという声があるが、それに対してはどうか。
- 木村課長 特別支援教育に係る指導には教職員の指導力によるところが大きい。来年度に向けて、全校職員を対象に発達障害に関する研修を取り入れて、より多くの先生方に特別支援教育の理解や指導方法について学んでいただく機会をもつ。また、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任、通級指導教室の担任に対しても個別に研修を行い、それを基に校内体制を確立したいと考えている。また、若手教員については、初任者から4年目教員については、指導課から訪問して指導する。また、来年度新設する学校支援センターにおいては、退職教員が5年目教員を対象に個別の状況に応じた支援を行う。その他、巡回相談などで専門家を学校へ派遣し指導を行ったり、指導主事がすべての学校を訪問して特別支援教育に係る指導を行ったりする。あらゆる手段を通じて、子供たちの支援を行っていききたい。
- 北林議員 支援員の配置について4人に一人の配置と言われたが、この基準のもとになる規則はあるのか。
- 木村課長 4名に一人というのは決められたものではない。指導課として、学校の状況に合わせて設定した基準である。
- 北林議員 配置については児童生徒の実態に合わせて行っているということは分かったが、4名に1人ではなく、流動的に行っていくことはできるか。
- 木村課長 4人に一人の配置は、基本的なものとしている。学校の状況、児童生徒の特性の状況を踏まえて必要なところに配置している。特別支援学級の定員は8人だが、学級担任に指導力がある場合は、教育補助員を配置していないこともある。その分を別の学級へ回すなど、しっかりと学校の状況をみて配置していきたい。
- 北林議員 毎年このことについて質問で出てくるということは、我々を含めて現状に満足できていないということが分かる。広範囲に教育補助員、学校教育支援員が配置できるよう体制づくりについても考えてもらいたい。

---

#### 【スクールソーシャルワーカーの派遣について】

- 牛尾副主査 臨床心理士と社会心理士を総称してスクールソーシャルワーカーと呼んでいるが、具体的にはどのような活動をしているのか。
- 木村課長 スクールソーシャルワーカーは、不登校、いじめ、暴力行為、虐待などの生徒指導上の課題などに対応するために教育分野に対する知識に加えて、臨床心理などの専門的な知識を持ち、関係機関との連携を図るなど、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行うものである。現在、スクールソーシャルワーカーは、市では5人、県から3人を配置している。
- 牛尾副主査 具合的には家庭訪問したり、家族と関係機関を結びつけるということか。
- 木村課長 連携の形態としては、電話、来所、学校訪問、家庭訪問、ケース会議に参加するなどしている。

- 牛尾副主査** 充足状況はどのように感じているか。
- 木村課長 市のスクールソーシャルワーカーは、学校からの要望に対して市から派遣する形態である。その支援を充実させるためには、必要に応じて派遣することが大切であり、派遣時間の要望が増えているため、令和4年度は拡充をしている。
- 牛尾副主査** 要望が増えれば、専門知識のある人材確保が大変だと思うが、いかがか。
- 木村課長 学校配置の県からのソーシャルワーカーも活用しているが、市として要望が増えれば拡充も考えていく。

---

### 【タブレットの破損状況について】

- 谷分科員** 落として割れたような場合の買い替えについて、何件あって、どう対応をしたか。
- 沖室長 今年度、修理が必要な破損は約250台。予備が約1,500台あるのでそれに対応しており、保護者に弁償を求めることはない。予備機で対応できない状況になれば、追加補充をしていくことになる。
- 谷分科員** 機器の更新は一定期間が来たらしていかなければならない。一斉購入、あるいは更新となると財源も大変だと思う。1・2年生は読み書きも必要でそちらを充実させながら機器も使うことが求められていると思うがどうか。
- 沖室長 タブレットの活用状況についてですが、学年によってタブレットの活用状況には差はある。小学校では、高学年では、タブレットを活用した授業を積極的にしている等、肯定的な評価をした教員が92.8%だが、中学年が71.2%、低学年が40.0%という具合に、段階的に活用の頻度は上がっている。小学校の低学年では、タブレットの画面をペンでたどって字をかくよりも、鉛筆を持って紙にきちんと字を書くことも大切だと考えている。段階に応じて活用の頻度を上げていって、学びを充実させていければと考えている。

---

### 【特色ある学校教育の広報について】

- 重光分科員** 新規事業で特色ある学校教育の広報とあるが、その内容を教えてほしい。
- 沖室長 学校教育レベルアッププラン推進委員会の委員からも東広島の教育を全国に発信していけばとの指摘があった。例えば今年度、また来年度新しスタートをきる福富、河内、志和などの特色ある教育や、今年度からスタートしたICTを活用した教育等、本市には特色ある教育を行っているので、それを発信することを考えている。
- 重光分科員** 情報を発信する方法はどう考えているか。
- 沖室長 基本的にはホームページを通じて発信することを考えている。そこに動画コンテンツを作成し掲載することも検討している。
- 武上次長 補足する。広報の部署において、市のホームページが見にくいので、改良しようとしている。代表ページの子ども子育てのページから教育の内容を発信するページに飛ばして発信していくことを考えている。広報と連携していきたい。
- 牛尾副主査** ホームページもいいと思うが、他の教育委員会ではSNSを活用しているところもある。そういう考えはあるか。
- 沖室長 現段階ではSNSに飛ばすことは考えていないが、先ほどの意見を踏まえて検討してい



きたい。

### 【人口推計の見直しについて】

北林議員

龍王小学校は、できてあまり時間がたってないと思うが、既に仮設を用意しなければならなくなるほど予想に反して人口が増えたと見るのが正当と思うが、先ほどの武上次長の答弁の中で、児童生徒数の推計については「住基人口を基準にする」ということだった。住基人口でみるということになると、0歳児、1歳児がどのくらいいるのか、何年たったらどのくらい入ってくるのか予測するということだと思うが、実際、仮設校舎を用意しなければならないほど開発のペースが非常に速いということが現実に起こっている。人口の推計について見直す考えはあるか。

武上次長

学校の標準規模があり、1学年2～3学級が標準である。学校を建てる時は、30学級を超えると新設分離を検討するよりの国の指摘もある。龍王小学校はマックスの30学級で建てている。ご指摘のとおり、予測を超えて人口が増えている。要因としては小学校ができたことで、転入した方も多くいるのではないかと考えている。今の状況という仮定ではあるが、R7年度に1,000人を超え、それ以降は横ばいが続いていくのではないかと推計している。

北林議員

龍王小学校を例に出したが、例えば西条小学校はずっと仮設校舎があるが、4年生になったらみんな仮設校舎に行くということはなっているのではないかと思うが、どうか。

武上次長

西条小学校から、古くは東西条小学校、御菌宇小学校が分離し、直近では、平成13年に三ツ城小学校が分離した。

三ツ城小学校と分かれる前は1,200人弱ぐらいだったと思う。三ツ城小学校と分かれて600～700人が約20年かけて1,000人に増えている。仮設校舎を、いつ増築校舎とするか、分離で新しく建てるかについては苦慮している。西条小学校区については、市街化区域で、建物も張り付いているので、今後、ほぼ横ばい、緩やかに減少と見込んで、今回増築に踏み切った。

人口推計は、まちづくりのビジョンを明確にして、各地域の個別計画をいま作られているが、そういったものを作り上げる中で、各地域の人口も推計できればと教育委員会も考えている。

こういった部分は政策、まちづくり、開発の部門と連携を密にしていかなければならないと考えている。

北林議員

他部局がなかなか教育委員会に応じた人口推計が出ていないという考え方でよいのか。

國廣部長

仮設校舎となると、普通の校舎と違い子どもたちの制約もあり、環境も違うので、なるべくなら仮設を建てない方法で行きたいと思っているが、子どもの数が増えると、仮設校舎の建設も余儀なくされる。

都市計画マスタープランでまちづくりを進められているが、西条駅の北側、御菌宇付近など、民間開発が進んでおり、後追いにはなるが、仮設校舎でしのいでいる。

学校区に応じたまちづくりを都市計画がするのではなく、都市計画の考えを教育委員会としても協議しながら、このエリアでどういうまちづくりが進むのかの情報をいただきながら検討している。

ただ、これだけ宅地開発が進んで人口が増えると、新設も検討の範囲になるかもしれず、

学校区の変更という悩ましい問題も出てくるので、早めに、関係部局と協議しながら検討していきたい。

**北林議員**

この問題は教育委員会だけでどうするという話ではなく、むしろ教育委員会は、なぜこんなに増えるのか、その結果、新設も少し考えないといけないという悩みだと思う。

最初に人口推計する場面の中で、例えば都市計画であれば、その中に教育委員会の意見を反映できる部分というか、これはまた別の場面で言わないといけないが、横の連携というのは、都市計画からの情報を教育委員会がエッセンスをかぎ取りながら、たぶんこうなるのではないかということになると思うが、そのこのところの仕組みを内部的には変えていただきたい。

これは私の要望だが、そうでないと、教育委員会は後から課題をいただいて、それを解決するだけでも精一杯ということだと考える。これは、また総括の質疑の時に述べさせていただきたい。

---

### 【学校支援センターの設置について】

**坂元分科員**

具体的に何をするのか。

**武上次長**

スクールサポートセンターを改組し、スクールサポータによる支援に加え、若手教員の伴走型を支援することとしている。運営体制はセンター長1名、スクールサポートコーディネータ1名、スクールサポート支援スタッフ3名、事務職員1名の内訳としている。内容は、教員に対するICTを活用した研修メニューを開発し、オンデマンド型の研修システムを構築する。具体的には、動画コンテンツを作成して配信したり、ICT機器の活用実践事例集を活用することも考えている。

**國廣部長**

学校現場では中間層の教員が少なくなっている。若い教員が悩みを打ち明けるような先輩がいないということもある。就職5年目の教員、毎年40名くらいいるが、授業の指導、保護者対応等について総合的なサポートを、1回ではなく、年間を通じて行うことを考えている。中間層の教員の不足による若い教員の指導力の向上を視野に入れて活動していきたい。

**坂元分科員**

様々な課題に対してこういう支援を行うセンターがあるのは心強いし、若手とベテランとの間を埋める意味でも大変期待をしている。当面青少年センターに設置するということが、長く継続できるような形でお願いしたい。

**加根議員**

若手教員が相談できる人がいないという環境になっていることも改善する必要があるのではないか。先輩教員のそういった部分を改善するための研修の必要だと思うが、どうか。

**國廣部長**

教員への研修も必要だが、絶対数として中間層の先生が少ないため、小規模校では特に年齢層のアンバランスであり、そういったところを学校支援センターでカバーしていきたい。

**加根議員**

しっかり注視していきたい。学校現場がいい環境である必要があると思うので、よろしくお願いしたい。

---

### 【電子百科事典について】

**玉川分科員**

電子百科事典の利用率はどのくらいか。

沖室長 具体的な数字は把握していないが、学校からの声としては積極的に調べ学習ができるとの評価を受けている。いろいろな教科や学習テーマに対応しているので活用の頻度は高いと考えている。

玉川分科員 なぜ3年契約なのか。

沖室長 商品の契約の性質上、3年契約になっている。

玉川分科員 3年ごとに更新ということか。

沖室長 3年ごとに見直しをすると捉えていただければと思う。現場の声を聴きながら、取り入れていきたい。

玉川分科員 大変便利な世の中になったということだと思うが、実際に百科事典の引き方や見方を知ることもしないといけないと思う。なんでもデジタルということではなく、現実に使ってみることも必要だと思う。

パソコンを使うと何でもできてしまい、漢字が書けないということもあると聞く。教えるべきことは教えるとか、そういう機会も導入して指導してほしい。

---

### 【賀茂北高等学校への支援について】

奥谷議員 地域が運営している生徒の自学自習の場への講師の派遣とあるが、運営費用ではなく、資格取得に係る講師の派遣や通信講座の受講に係る費用が上がっていると理解してよいか。

武上次長 県立高校は、2年連続して80人未満の学校について廃校の方向性が示されている。市教委等で構成する地域活性化協議会では高校の活性化策を検討することになっている。賀茂北高校や豊田高校に設置され、活性化に向けて関係部局と協議している。

賀茂北高校は、地域で稲葉塾というのを作っていて、協議の結果、こういった資格取得の取組みを行うことで高校を活性化できるのではないかと地域からの要望を受け、予算を上げている。

奥谷議員 資格取得に係る講師の派遣は、どのくらいを想定しているか。

武上次長 簿記検定、ITパスポート試験や試験への補助、ドローン講習、チェーンソー講習などの予算を上げている。

奥谷議員 300万円の積算根拠はどうか。資格取得の費用も入っているという印象を受けたが、通信講座の受講に要する費用など、内訳を教えてください。

武上次長 簿記検定は、1コマ講師料7,000円、交通費も含めて、45コマで53万5,000円余、簿記のWeb講座56,400円を25名で70万5,000円余、ITパスポート試験1コマ講師料22,000円、交通費も含めて、20コマで52万4,000円余、ITパスポート試験Web講義16,800円を25名で21万円、そのほか、ウェディングコーディネーター養成、フラワーコーディネーター養成、オンライン英会話、チェーンソー・刈払機講習、ドローン講習、乗馬など合計で約299万8,000円を予定している。

奥谷議員 中身は分かった。賀茂北高校との協議で決めたということだが、生徒が活用するということが大変だと思う。県立高校なので本市がどうこう言う立場ではないが、冒頭言われたように、80人を切らないように、何とか賀茂北高校に生徒を寄せることが大事である。効果的な支出となるよう、来年度の事業の状況を見ながら、検討していくべきだと思う。

### 【グローバルマインドの育成について】

景山議員 東広島市としては小学校段階でのどのような国際感覚を持った子どもの育成を目指しているのか。

木村課長 グローバルマインドとは、地球規模の広い視野で情報を捉え、文化や価値観の違いを認識し、自分自身の信念や価値観を明確にしながら、多様な人と協働できるという考え方である。小学校低学年、中学年の段階から外国人留学生と触れ合うことによって、国際感覚を身に付け、多様な考え方や価値観を醸成していきたい。

景山議員 いろいろな国の人を当てたほうが良いのではないか。

木村課長 新型コロナウイルス感染症の拡大による水際対策により留学生の数も少なくなっている。現在、特色のある学校づくりという取組みも行っており、国際理解教育の観点で、学校が計画を立てて、地域や広島大学との連携の中で留学生等を派遣している。様々な価値観を持ってほしいと考えている。

---

### 【学校給食センターの東広島産の使用割合について】

田坂議員 賄材料を一般会計に計上している。市内産の割合をどうやって高めるかが課題だと思うが、現状について伺う。

鳴川次長 野菜については、R2年度、品目数での市内産の割合は9.8%であった。学校の一斉臨時休業があった関係で、前年度よりも使用割合が下がっている。

田坂議員 使用割合を上げるための取組として何か考えているか。

鳴川次長 R3年度から賄材料費を一般会計に計上した際に、調達方法を変更している。これまでは各学校給食センター栄養士がJAから生産品目や量を聴いて発注していたが、今年度から、卸売業者がJAからの生産情報を聞いて、各学校給食センターに細かく割り振っている。そのため、使用割合は上昇している。令和4年度は、産業部、大学と連携して、生産者からの情報も取り入れていきたい。

田坂議員 目標を定めることが必要だと思うが、どうか。

鳴川次長 H29に食育推進計画において、目標値として15%を掲げている。

田坂議員 地産地消を進めることはCO2の排出の削減につながるし、農業の多面的機能の維持にもつながると思うので、目標は高く、しっかり進めていただきたい。

谷分科員 地元産野菜の産直を進めるうえで、(少量の生産者とも)交流してしっかり財源を補填することが、一番大切だと思うが。

鳴川次長 関係部局と連携しながら取り組んでいきたい。

---

### 【外国語教育の推進について】

景山議員 先ほどのグローバルマインドの育成事業では小学校への派遣のみであった。国際感覚の醸成については中学校段階でも必要であるが、その重要性を教育委員会として感じていたのか。

木村課長 外国語指導助手については、現在19名の外国語指導助手を市内全小中学校に派遣している。外国語指導助手は1週間に2校から5校の学校を訪問することになっている。小学校中学年から中学校までの児童生徒が週に1回ALTの授業を受けることになっている。これ

を補足するために、先ほどのグローバルマインド育成事業で申し上げた外国語活動指導協力者を小学校の低学年、中学年へ派遣している。

景山議員

今後も子供たちの国際感覚を養うことを充実させてほしい。

谷分科員

外国語指導助手の昨年の実情と現状について教えてほしい。

木村課長

令和2年4月には19名在籍していたが、令和2年度中に任期満了等で5名が帰国し、令和2年9月以降は14名となった。そのまま令和3年4月は14名であったが、令和3年度中に7名が帰国した。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、新規入国が制限されたため、来日できない外国語指導助手の代わりに、英語が堪能な地域人材を学校へ派遣し、外国語活動や外国語科への対応を行った。現在は、新規招致が始まり、10月～11月で12名が来日し18名となっている。中途退職者が1名いたが、まだ来日できていない。

---

### 【コミュニティ・スクール推進員の配置について】

大下議員

コミュニティ・スクール推進委員にはどのような方があたられるのか。

木村課長

コミュニティ・スクール推進委員は本市独自の取組である。当該学校及び地域をよく知っているもので、当該学校の元職員や地域の方などが当たられる。

大下議員

現実には学校の先生が当たられると聞いたが、学校の先生方に負荷がかかるという新たな危惧が生まれたが、その点に関してはどうか。

木村課長

他市町の状況では、学校運営協議会の担当は、特に教頭が行うことが多い。本市ではコミュニティ・スクール推進員を置いており、実際に業務を行っているのは、保護者、元教員、地域住民などである。地域との連携を特化して行ってもらうことで、教職員の負担軽減につながっている。

---

### 【自由討議】

谷分科員

今までのまちづくりの検証、過疎と過密、合併後の課題である。

坂元分科員

都市計画など他部局との連携の中で、学校の適正配置を考えていく必要がある。

学校支援センターの設置は、退職した先生の手腕を若い先生が引き継ぐという、とても期待できる。長く続くことを望む。

牛尾副主査

不登校への支援、しっかり行って更なる充実をしてほしい。

重光分科員

不登校の取組み、積極的に取り組んでいる姿勢が見られた。教育相談、家庭支援の充実など何重にも支援の策がある、期待したい。

谷分科員

特別支援の現状は厳しい。今のままでは不十分、しっかりした体制を望む。

【図書館機能の特徴化】

**谷分科員** 図書館の特色化のうち志和のアグリ図書館の開設について。この度の事業化の発想の経緯と利用計画は。また、財源はあるのか。

細谷次長 園芸センターのロビー等を利用し開設する。内容としては、園芸農業関係の図書の配置、インターネット上の有料サービスであるルーラル図書館の整備、その他予約図書の貸出・図書の返却、これらの図書館サービスを月に数回出張してサービス展開する。なお、財源は全額市費である。

開設の経緯としては、図書館サービス計画に位置付けている未整備地域へのサービス展開の検討の一環で、志和町については園芸センターとも協議を行い、開設に至ったもの。

**谷分科員** 今後は常設化が期待できるのか。

細谷次長 現状は出張サービスであるが、今後の実施形態は来年度の実績を踏まえて検討を進める。

**谷分科員** 専門の新聞等は購入してもらえるのか。

細谷次長 現在、図書館で農業専門新聞の購入予定はないが、農業関係の新刊図書については購入を進めていきたいと考えている。

<関連>

**牛尾副主査** 図書館の特色化のうち西高屋情報ラウンジの設計について。施設整備のイメージはどのようなものか。

坂木参事 今までの図書館のイメージとは異なり、対象利用者に特化した、かつ、ICT機器を駆使した整備をイメージしている。紙の資料は1万冊程度と考えている。

**牛尾副主査** 学生がメイン利用者だと思うが、学生向けのラインナップなどは検討しているのか。

坂木参事 通勤通学者をメインターゲットと考えているので、ビジネス、人間関係の資料などを取り扱う予定である。

<関連>

**奥谷議員** 志和町のアグリ図書館開設について。そもそもの設置目的は？

細谷次長 園芸センターの機能特性を生かした特徴的なサービス展開ができないかということと、加えて、未整備地域への図書館サービスの展開拡大を図ることが目的。貸出返却に加えてイベントも行っていきたい。

**奥谷議員** 施設利用者のターゲットは。

細谷次長 施設特性にある園芸農業の関係者はもちろんのこと、出張して通常の図書館サービス展開も行うので、一般の方も利用できるものと考えている。

**奥谷議員** 志和にアグリとするのであれば、近隣の農業法人、農業従事関係者に周知を図り、ここにしかないものを作らないと形骸化してしまう。農業をもっと本市の成長産業として位置づけるなら、もっと特色のある関係資料を調達して欲しい。

<関連>

**谷分科員** 志和町の移動図書館サービスはどうなるか。

坂木参事 志和には現在で4カ所ステーションがあるが、利用がある所は引き続き巡回する。

---

#### 【芸術文化振興について】

**坂元分科員** 芸術文化振興基金であるが、現在、残高はどの位あって、市の積立はどの位か。

石井課長 現在、基金の残額はR3年度末段階106,705千円で、うち、市の積立は令和2年度から開始し、令和3年度までで3,000万である。

**坂元分科員** いつまで積み立てるものか。

石井課長 基金は美術作品購入の原資となるもので、美術品の購入にはタイミングというものがあり、一気に使う場合もある。今後も、継続して1億2千万～3千万程度までは積み立てる予定。

**坂元分科員** 今年度の購入作品の実績について。

石井課長 令和3年度は特別展を開催した文化勲章受章者の今井政之氏の陶芸作品8点で、995万5千円である。

**坂元分科員** 令和4年度の購入計画はどうなっているか？

石井課長 まだ決まっていない。地元ゆかりの作家で、陶芸や版画、彫刻などを中心に対象を検討している。

---

#### 【芸術文化振興の管理費に関する説明】

**牛尾副主査** くららの維持管理について、長寿命化というところであるが、まだ建設されて6年ほどしかたっていないと思うが、もうこれだけの費用が掛かるのか。内容はどのようなものになるのか。

石井課長 くらら修繕については舞台、音響、照明などを中心に保守等を進めていくものであり、大規模修繕については、20年に一度行うこととしている。それまでも長寿命化計画に基づき、照明や音響設備のバッテリー等を交換していくのに、経費が必要となってくる。

岡田部長 補足すると、設備機器については、5～7年で減価償却が来るものがある。他のホールでは小修繕をしつつ10年等相当期間使用を続けるところもあるが、プロモーターの公演の途中などに故障等があれば莫大な損害賠償等が発生することから、事前に交換等を行っていくもの。

---

#### 【生涯学習サテライトキャンパス講座】

**玉川分科員** 生涯学習サテライトキャンパス講座について、具体的にはどのような内容を考えているか。

細谷次長 事業の主旨としては、大学の教授等が専門的な内容の市民向けの講座を、大学等の講師側が地域に赴いて実施してもらおうというもの。今年度の事例で言えば、例えば、プログラミング講座、ウォーキングの動作解析などの講座。

**玉川分科員** 実施回数などの検討は。

細谷次長 年間で18回、各町で2回ずつを予定している。

**玉川分科員** もっと周辺地域で回数を増やしてほしい。

---

**【学びのキャンパス基礎調査】**

**北林分科員** 学びのキャンパス基礎調査について。生涯学習センター機能の特色化とはどういう意味か。

細谷次長 現状のホールのある生涯学習センターは貸館を主としたものとなっている。これを何とか地域の文化活動・芸術活動の発信拠点として活用できないか、地域ごとに特徴化ができないかと考えている。このうち、黒瀬生涯学習センターについては予算付けをして先行して試行実施をしたいと考えている。

**北林分科員** 黒瀬生涯学習センターはとても立派なホールだが、なぜ鑑賞事業の予算が措置されていないのか。市南部の文化拠点としてもっと活用してもらいたいと思う。そうした特徴的な性格付けと、今の時代にあう整備や補修等をしっかり検討してほしい。

細谷次長 各生涯学習センターの持つ機能や利用実態を活かして、今後の事業戦略の方向性を探っていきたい。

岡田部長 くららが出来たときに、市の鑑賞事業予算をくららに集約した経緯がある。くららの運営が順調に軌道に乗った時期にあるので、各地域の展開を強化していきたいと思っている。

その際の特徴的な位置づけは、くらら以外の4つのホール施設の特徴に沿った利用を検討し、それに見合った維持修繕を行っていく。

**北林分科員** 中央に予算を集中する期間が長かったのでは。その間に各施設は老朽化が進んでいる。特に黒瀬生涯学習センターでは、鑑賞事業に対応し得る舞台機構や音響照明のリニューアルが不可欠、またトイレの利便性向上は喫緊の課題である。いずれにしても、予算や事業の方向性を見直すのであれば相当の覚悟が必要。

<関連>

**牛尾副主査** 学びのキャンパス基礎調査について。予算金額の設定や実施主体はどのように考えているのか。

細谷次長 内容としては、施設の有効活用・特色化を検討することを目的に、市民アンケート、各種団体へのヒアリング、施設利用者へのアンケートにより本市の生涯学習活動の実態を調査、弱点や強みを分析し、将来的な生涯学習活動の戦略案を策定する。実施主体については、入札によりシンクタンクのある業者へ委託することを考えている。

**牛尾副主査** 事業者の言い値や意見だけにならないように、市の意見がしっかりと入るよう進めてほしい。

<関連>

**奥谷議員** 施設の実態調査は、生涯学習部が管轄している施設という意味か。

細谷次長 事業の対象施設としてはあくまでも生涯学習部所管の施設だが、弱点を補完するため他の施設も検討の対象とする。

**奥谷議員** 他部局の施設の利活用にも影響してくるが、部局間の調整はできているのか。



細谷次長 事業の方向性の策定にあたり、本市経営戦略会議での審議等を経ており承認を受けている。

<関連>

**牛尾副主査** 各部局で様々なイベントを行っているが分かりづらい。市が実施する生涯学習イベントの情報発信の一元化なども検討してほしい。

---

**【オオサンショウの宿の管理について】**

**谷分科員** オオサンショウウオの保護について、懸案になっている工事との調整はどうか。

石井課長 生息環境の変化は、災害等で生じているが、河川改修にあたっては各部局で営巣できるような工法や環境配慮型のブロック等の材料を採用する等協力いただいている。河川にある堰については、オオサンショウウオが餌場に遡上するのに支障となっており、魚道のようなものが必要であるが、多くは県河川であり、また、農業水利でもあるので、関係各所との調整を進めている。

**奥谷議員** オオサンショウウオの宿運営にあたり観光の視点からの施策は含まれているか。

石井課長 宿については、設立時、産業部と生涯学習部で連携し、オオサンショウウオを観光資源として生かしたいとの強い思いで産業部が設置された経緯がある。側面を有した施設として整備している。文化財保護観点からは、オオサンショウウオの宿は、生息調査した際に、弱っている個体を見つけた場合に一時保護する施設である。ただし、それを保護しておくだけでは、天然記念物の保護について理解を得られないので、施設に保護している期間については、オオサンショウウオの生育に支障がない限り公開している。宿の運営には乃美地域センターのご協力をいただいております。来年度予算には地元で保護し公開していただく費用が含まれている。また、オオサンショウウオの保護や活用について興味を持たれている企業もあるので、産業部とも連携し観光にも活かせるようにと考えている。

---

**【芸術文化振興の管理費に関する説明】**

<再説明：毎年のくらの維持管理費について>

石井課長 くらの維持管理について、修繕費として28,196万円、自主事業費で17,440千円、併せて45,636千円が施設管理運営費となっている。

今年度、くらは開館から6年目に入っているが、今後、28,000千円程度の維持管理費が毎年を要する。また、設置20年目頃に、更に大規模な修繕が入ることになる。

---

**【社会教育関係等研修会について】**

**谷分科員** コロナ禍で難しいとは思いますがきちんと実施できているか。

細谷次長 地域センター職員や生涯学習推進員を対象に実施している。来年度の予定と

しては、新任者への基礎研修、全体研修を年に2回、地区別研修を年に2回、人権研修を年に1回の実施を予定している。

谷分科員

この職員向けの研修を実施した結果としての市民への還元は。

細谷次長

研修の中で学んだ知識を活かして、各地域での地域センター講座などを実施してもらっている。各地域でより良い講座を実施してもらえるように受講してもらっている。市民への還元を数値化してお示しするのは難しい。

谷分科員

対象となる受講者の人数や年齢構成は。

細谷次長

研修受講者の構成としては、生涯学習部任用の生涯学習推進員については、20代が1人、40代が2人、50代が4人、60代が5人となっている。また、地域センター職員については地域振興部の任用になるので詳細は把握していないが、研修の受講者としては、在職年数が2から27年の方で、40から70代の方が受講されている。

谷分科員

公民館の時代のように、専門的な職員に育成してほしいと思う。

---

### 【文化芸術の振興について】

玉川分科員

出前美術館、出前博物館、活動指標に3校、5校とあるのは、どういう数字なのか。全部の学校に行っていたきたいが。

石井課長

出前博物館・出前美術館は、全校にご案内しているところであるが、コロナの影響や、学校のカリキュラムとの関係から申し込みが少なくなっているため、実績に応じた校数を活動指標とした。前年度から案内を出したりしているが、カリキュラム等との兼ね合いやコロナから実績は少なくなっている。

玉川分科員

申込次第なのか。

石井課長

そのとおりである。ただ、一つでも多く受け入れたいというのは担当課の想いはある。

岡田部長

この講座は、実際に発掘調査している担当者や、美術館の業務を行う学芸員が担当している。日々の業務がある中で、マンパワー的にはこれくらいに限界とも思われる。

玉川分科員

致し方ないというところか。とは言え、なるべく学校を回ったり、本市に所蔵している作品を見せてあげられるようにして欲しい。

岡田部長

同じページにある、はじめて美術館は市内小学校の全校を対象としている。今年度は、展覧会のスケジュールとコロナ等との事情で、来館できない学校もあったが、令和4年度は全校が来られるよう、予算組みをしている。また、福富町に新文化財センターが完成したら、同様の企画もできている。これらの事業により、本市の財産に触れて頂けるよう実現していく。

谷分科員

学芸員は何人正規雇用でいるか

石井課長

美術館に、館長を含めて3人である。

谷分科員

正規雇用か。

石井課長

5年間の任期付きの正職員である。

谷分科員

経験が必要な所なので、継続して働いて頂きたいところ。専門職の予算の見込みは立っていなかったのか。

岡田部長

学芸員の雇用方針は、職員課の専門職における考え方を踏まえてようになった

ということ。

東広島市教育文化振興事業団の強化の中で、専門職の雇用を検討しており、長期的な運営に対応できるよう考えていく。

---

【文化財の案内板等について】

**田坂議員** 文化財の案内板であるが、新設や修繕を行うということだが、既設の案内板は何基ほどあるのか。

石井課長 手元に資料が無いので調べる。

---

【スポーツ施設の管理】

**中川分科員** 施設修繕で造賀コミュニティスポーツ広場防球ネット修繕ほか2件とあるが、この修繕は、どういうタイミングで行われたのか。また、申し入れがあったのか、点検をして修繕が必要なため修繕したのか、修繕に至った経緯を教えてください。

丸山次長 コミュニティスポーツ広場等の修繕は、管理者の方から防球ネットの不良箇所がみられるとの連絡があり、職員が現地確認を行い修繕しないとボールが飛び出るなど、プレーに影響が出ると適切に判断したうえで、予算を計上した。

**中川分科員** 管理者の方から情報提供があったということで、こうしたスポーツ広場の使うにあたり利便性を考慮し、早期に対応していただきました。そういう事について言えば、次の 268 ページ利便性を上げるための整備として、福富多目的グラウンドのトイレの設置や、黒瀬多目的グラウンドの手洗い水飲み場を整備するなどにあたっては要望等があると思うが、これは計画的に順次進めたいと理解してよいか。

丸山次長 大規模な改修については、利用者や管理者からの要望など実際に利用者が不便をきたしていないかがポイントとなる。スポーツ振興課が所管しているスポーツ施設全体を見て、順次、修繕・改修していく計画を立てながら、その他の施設についても計画的に修繕、改修をしていきたいと考えている。

**中川分科員** 福富多目的グラウンドや黒瀬多目的広場グラウンドの方もそうかと思うが、利用者が多数利用されていることで、色々な意見があると思うので、計画的に改善してほしい。

**田坂議員** 先ほどの黒瀬多目的広場グラウンド件で手洗い水飲み場について、今に至って設置されるということだが、今まで出来ていなかった理由があるのか。

丸山次長 黒瀬多目的広場グラウンドについては、設置当初からトイレしかなく、その中でなぜこの広いグラウンドでトイレしか無いか調査してみないと分からないが、実際に利用者等の意見の中で、広いグラウンドで特に夏場などに水飲み場が無いとか、距離が離れているとの意見を頂いて、やはり途中に 1 カ所水飲み場等必要ではないかと判断し、整備をすることにした。

**田坂議員** 離れた場所にあって飲料水にするには水質が維持できないということがあ

たのではないかと思うが、実施にあたってはその点に十分注意して実施していただきたい。

**片山議員** 黒瀬多目的グラウンドの地域の指導者が喜ばれると思う。今回の設置予定場所の2カ所の位置図となっているが、どちらも増設するものか確認をしたい。

丸山次長 このシートの図面に示しているとおおり、2カ所設置する。1カ所あたり5口の蛇口を2カ所この図面に示している位置に設置する。

**片山委員** 簡易テント等も設置されるということで、ほかの施設でもまだ揃っていない施設もあるので、順次更新して熱中症などを防いでほしい。

---

#### 【文化財について】

**田坂議員** 指定文化財等の維持管理、公開活用の活用方法について内容は。  
石井課長 市の所有する旧木原家住宅や旧石井家住宅の公開をしており、活用については、探検文化財等で市内文化財を観覧する機会で開催活用を図っている。

**田坂議員** 重伝建は活用しながら保存ということになると思うが、旧石井家住宅や旧木原家住宅は活用しながら保存できないのか。

石井課長 指定されているものについては、公開だけと言われても仕方がない部分はある。伝統的建造物群については、外観を保全しておけば、中身を改装することが可能であるため、改造して活用できるが、旧木原家住宅や旧石井家住宅は、それぞれ国、市の指定物件であり、その構造や意匠に価値があるため、中の改装は困難である。そのため、今できる活用といえば、旧木原家住宅であれば、毎年行っているが、展示ケースを置いて高屋東小学校の児童作品を展示するようなチャイルドアート展を行ったり、旧石井家住宅では美術館の企画展とコラボして、現代アートの展示を行ったことがあるが、そういったものであろうかと思う。指定文化財となると、建物の改造等もできないため利活用のハードルが高くなる。

**田坂議員** 難しい部分もあると思うが、実際にできるものもあるので、検討していただきたい。

---

#### 【文化財の案内板等について】

吉野文化財係長 案内説明板、標識について、説明板が77件 案内標識が32件である。

**田坂議員** 修繕とあるが、市の方が点検して修繕の要否を判断するのか？

石井課長 定期的に現地に行き、目視等で現状確認をしているが、年数がたっているものや弱っているものについては、台風等が来た場合に、すぐに状況確認を行っている。

**田坂議員** DB化や、台帳化は行っているか。

石井課長 行っている。

**田坂議員** 承知した。

**【自由討議】**

**谷分科員** 学芸員の正規雇用が望まれる。

**牛尾副主査** 学びのキャンパス基礎調査は、他部局との連携や包括的な視点で実施して欲しい。

**坂元分科員** くららや美術館などすばらしい芸術拠点がある。小学生の美術館見学など良い事業だと思うので、そういう機会をこれからも作って欲しい。

**谷分科員** 職員研修の人材育成については、LGBT など今話題になっていることをやって欲しい。

**牛尾副主査** くららの維持管理費に 2,800 万ほどかかるなど公共施設の維持管理に経費が必要ということだが、その分、くららや美術館等をしっかり活用していただけるよう、事業を進めていただきたい。